

(様式第4号)

上田市公立大学法人評価委員会 会議概要

| | |
|-------------|--|
| 1 審議会名 | 上田市公立大学法人評価委員会 (第7回) |
| 2 日時 | 令和5年1月17日 午前9時30分から午前11時20分まで |
| 3 会場 | 長野大学4号館3階 教授会室 (web会議併用) |
| 4 出席者 | 田村秀委員長、鳥居希委員長職務代理者、佐藤明生委員、城下徹委員、西牧敦子委員 |
| 5 市側出席者 | 大矢政策企画部長、北沢学園都市推進室長、堀内大学改革担当参事、中山大学改革担当政策幹、堀内学園都市推進担当係長、倉澤主査 |
| | 公開 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開 ・ 非公開 |
| 6 公開・非公開 | 理由：法人の内部における審議、検討又は協議に関する情報であって、非公開情報が含まれるため。 |
| 7 傍聴者 | 0人 記者 3人 ※説明者として、公立大学法人長野大学関係者出席 |
| 8 会議概要作成年月日 | 令和5年 1月23日 |

協議事項等

| | |
|-------|--|
| 1 開会 | |
| 2 議事 | (1) 公立大学法人長野大学 第2期中期計画 (案) について |
| | ○資料に基づき、事務局が説明 |
| (委員) | 資料1について、大学回答の欄は市も答えているのか。 |
| (事務局) | 大学回答欄で黄色マーカー部分は市からの回答となる。 |
| (委員) | 2番の見込評価での淡水研については、各論で書かれている範囲なのかもしれないが、資金の使い勝手の指摘に関する回答が書かれていないので指摘する。 4番について、中期計画が妥当かは評価委員会には完全には判断できない。例えば、教職員の人材の出入り状況や、大学の求める必要な教職員が確保できているのか、学生確保の実態、資金的な面や財政的な面などは我々の立場では良くわからないため。 |
| (事務局) | 見込評価で課題となっている点は市でも確認しており計画に反映されていると考えている。足りない部分があればご指摘いただきたい。 |
| (委員長) | 4番に関連して、我々が判断するのに、エビデンスが十分でない点はある。学生に関する所はしっかりとした学生アンケートを実施しなければ分からない。エビデンスをしっかり取っていかないと、今後、年度評価が法令で定められなくなり、今後国立大学並みの評価となっていくと指標が必要となっていく。数値化しないと対外的に説明が難しい。学生アンケートなど極力エビデンスをとることをお願いしたい。 |
| (委員) | 6番について、目標設定を高くすると成果を出すのが難しいと書かれているが、どういう状態になったら目標を達成したと考えているか。数値化するのが難しい部分であると思うが、目標を高くしないとどうなるか。どこを目指しているのか伺いたい。 |
| (委員長) | 教職員全員が大学のビジョンを共有し、目標に向かって取り組むとありますが。 |

(法 人) ビジョンについては第1期の段階から明確に位置づけられていなかった。広範囲なビジョンが掲げられているので、アクションプランに落とさなければならないが、実効性あるものかは疑問。

やるべきは現在の状況からビジョン・アクションプランに対応できる方法を設定し、改善する方向に設定されていくことが基本的な要件。現状できていない点をクリアしていくのが基本的な考え方になる。

ビジョンは公立化2年目に作り上げた。学内では今後しっかり整理していく必要があるとの共通認識でいる。教職員が同じ方向を向いて目標を達成するために一丸となって取り組めると良い。

(事務局) 評価するにあたり、年度計画で決められている現行の評価基準と理解している。

(委 員) 現行の評価基準であることは理解している。重要なところなので、目標を高くしなくて大丈夫かと思ったため、意見した。大学の説明で理解した。

(委 員) 15番について、年度計画の定め方が低ければ100点を取りやすくなる。年度計画の設定そのものが重要。昨年度の評価にあたっては年度計画の設定の在り方が課題となっていたが、説明をお願いしたい。

(法 人) 情報の収集が充分できておらず、定性的な内容しか感知できていない状況。定量化に対し躊躇がある。IRを含めてKPIに対応できる体制を整えていくという認識。基準や情報収集の蓄積を含めながらやっていく。

(委 員) 年度計画策定にあたっての市の役割はどうなるのか。制度上、市による事前関与が望ましいのかどうか。大学に任せるか市が評価結果を踏まえて対応するか、市はこれに取り組む意思があるのか。

(法 人) 市との情報交換は緊密に行っていく必要がある。お互いに経験を蓄積しながら、より緊密で中身のある意見交換ができていくことを望む。

(事務局) 大学と連携を取りながら年度計画の策定を進めていきたい。

(委員長) 法律上、年度評価はなくなるが、それゆえ進行管理をしっかり行い、指標が妥当でなければ6年を待たずに見直すなどの対応は必要になってくる。情報を把握し、年度評価がなくなるからこそ、進行管理と目標設定が必要となるのではないか。他の事例も参考に、情報交換を密にしてほしい。

<項目別の意見・質問>

(委 員) 17番の大学院入学者選抜について。定員充足率100%は高い目標であるとする回答に対する再質問。指標で「確実な目標」と「高い目標」があるとする、どのようなポリシーで設定しているのか。

(法 人) 定員充足は当たり前であるが、これが出来ていない状態。6年間のなるべく早い時期に目標達成できるよう計画に記載した。内部から大学院に進学する者が一人も出ていない状況で、学部教育の方向性を検討していかなければならない。令和9年度までに大学院の定員充足を果たすという計画を掲げた。

(委員) 全体として目標設定の考え方はどうか。高い目標（頑張る所）と低い目標（確実な所）は、その差はどのようなポリシーで設定しているのか。

(法人) これまでの推移や改革の方向性を踏まえて設定している。教育関係の指標は4センター（大学支援、学生支援、アドミッション、キャリアサポート）で6年間の取組を協議して、頑張れば達成できる数値として設定している。

ただし、アドミッションセンターの入試の倍率は、学部学科再編に併せて大きな改革を予定しているので、これを踏まえて実質倍率の目標（2.0倍）を設定した。次年度から前期、中期の入学者数の変更を予定しており、足かせにならない数値を設定している。

(委員長) IR的な情報収集が必要。学生がどう考えているかを把握する必要がある。県立大学では、10項目を5段階のレーダーチャートにしている。教員の評価ではなく、今後授業をどう改善していくか、学生のニーズがどういったところにあるのかを把握するために行っているもの。

満足度を測ることはマーケティングとしては当たり前であり、色々な情報を集めて教育の質を高めていくことをお願いしたい。

(法人) ご指摘の点は大学としても危機感を持っている。理事長、学長からも強い指示があり、後学期から全科目について10項目、内7項目については数値評価を取り入れたアンケートを実施する予定である。

(委員) 数値指標について。参考資料1に過去の実績と目標値を一覧にしているが、なぜこの目標値を設定したのかの説明がない。今後のことを考えると設定した根拠を記載したほうがよいのでは。

(委員長) どこに目標設定するのかは正解がない世界だが、考え方は記録すべきであると感じる。先の大学院を参考にするならば、他の同学部の大学院の充足率や世の中の状況を踏まえて目標設定の理由を記録しておくことは次の段階でも参考になると思う。

◇第3 研究

(委員) 研究資金の使い勝手の向上については計画に記載すべきではないか。

(委員長) 契約に際し、適切な所に委託等できないという指摘できたが、いかがでしょうか。

(法人) 文科省で公的研究費の管理監査のガイドラインが令和3年度に出ているのでこれに沿って運用している。第1期の反省も踏まえて、効率化、簡素化できる面は規程の見直しも含めて行っていきたい。

(委員) 規程の見直しは1年前から言われていて、大事なところなので、しっかり位置付けてやっていただきたい。

あと、淡水生物学研究所について、見込評価の段階では、色々な先生に研究に参加してもらいたい旨、記載されていた。基本構想を見たが、淡水生物以外の項目も研究対象としても入っているし、教育に使うと記載されていた。「淡水生物に関する」という記述を落とすのみだと、若干狭いかと思う。中期計画でももう少し広く読めるような表現にした方がよい。

(法人) 指摘の内容に修正していきたい。なお、淡水研を広く考えるべきという視点から運営委員会を立ち上げることを計画している。現在、規定を作り始めている。他の領域の委員も会員になっていただき、広い活用に向け、実行できると考えている。

(委員) そういったことが読みやすい計画にしていきたい。

◇第4 地域貢献・国際化

(委員) 地域貢献と国際化は目指す成果は異なるように感じるが、なぜ同一項目であるのか。1人の人が両方出来るようになることを目指すということか。意図としては、大学から巣立っていった学生や現役の学生が、両方できる土壌が大学にできれば良いと思う。

例えば、どういう人を思い描いているのか。ライフステージに応じて両方やる人はいると思うが、全体として両方できるようになるろうとするのでは、だいぶ意味が違うと思っている。

(法人) それぞれの人が両方できるというのは、個々に違うため何とも言えないが、国際的に活躍するなかで、地域にも貢献でき、国際的な視野を持ちながら貢献していくという人材を育てていくことが重要であると認識している。

(委員) 視野を持ちながら、ということを理解しました。

(委員) 16ページのグローバル人材の育成について、計画のア・イ・ウの3項目はいずれもグローバルな内容が記載されている。ローカルの部分の接点を読み取れない。ローカルの部分を計画に付け加えた方が表題との関係が分かりやすい。文言の加筆や再掲が必要ではないか。

(法人) 大学そのものが地域に貢献できる人材育成を目標に掲げている。ローカルな部分については再検討して記載したい。

(委員) 企業運営する中で海外との連携は地域との関わりが出てくる。重要な部分であるので、検討いただきたい。

◇第5 業務運営

(委員) 大学ビジョンを第2期中期目標期間中に改定する予定はあるのか。

(法人) ビジョンは10年、20年単位で変更していった方が良いと考えている。アクションプランは学長の変更に伴い変えてもよいのではと思っているが、具体的なものは検討していない。御指摘のとおり考えていく必要はあると認識している。

◇第6 財務

(委員) 外部資金の使い勝手の改善にしっかりと取り組んでいただきたい。

(委員) 経費抑制について、参考意見ですが、人件費を含む経費抑制と記載されているが、これが良い教育に結びつくのかという点が疑問。良い先生に来ていただくためには費用必要。大学の先生を守ることも考えていかなければならない。

新潟県立大学では計画的な人員配置、業務委託の推進により、との記載がある。こういう言い方をすると、単に人件費を含む経費抑制と書かれるのでは、ニュアンスが違ってくる。良い学生に長野大学に来てもらうため、ここについて再度考えてもらいたい。

(法人) 新学部設置にあたり、教員を採用するので人件費はかかる。第2期の前半は人件費が高むことが予想される。適正な人員の配置とそれに伴う経費については、検討の上配置する。運営費交付金などの収入と、教育費、研究経費または一般管理経費のバランスを見ながら考えていきたいが、人件費の増加はわかっているので記載内容は再検討したい。

◇第7 自己点検

特になし

◇第8 その他

(委員) 企業だとガバナンスに関して、情報の透明性や情報開示が重要視されている。ここの問題を考慮すると、計画の第8の1には不正をしないことについての記載はあるが、透明性を高めることは記載がない。この点は検討されているか。

(法人) IR、情報をしっかりと把握したうえで、情報を外に出したいと思っている。各種調査委員や外部委員と連携して情報の透明性向上を図りたい。

(委員長) 細かいところは再度委員から意見を出して、最終的には1月30日の委員会で確認したい。

(2) 理工系学部の新設及び既存学部の再編について（非公開）

3 その他

・第2期中期計画（案）に対する意見について

(事務局) 意見書の方向性をこの場で検討したい。

(委員) 中期計画は大学が定めるものなので、適当であるという判断はできない。認可するに際して意見を聞くということなので、市が認可するにあたっての意見という位置づけ。

計画にある文言そのものについて意見を言うのが任務なのかという疑問もある。個人的意見だが、年度計画の確認の在り方や、優れた人材を集めたうえで理工系学部ができるよう、市の協力も含めて精一杯やっていただきたい思いはある。

今後の取組について方向性として意見を出す方が良いのでは。文言については、市と大学で中期目標を達成するための計画として適切かどうか、しっかり協議して欲しい。

例えば、個別の数値指標が適正かは、時間的にも情報量的にも評価委員が判断するのは難しいので、市との確認のうえでしっかりやっていたものに対して、我々は意見するものと考えている。

(委員長) 6年間の方向性に対する意見を出す方が望ましいという認識で良いか。教育、研究、地域貢献、大学運営について方向性を出すというイメージか。

(事務局) 全てを網羅的にやる必要性はないかもしれませんが。各委員の皆さまの御意見を伺いながら、特筆するものあれば、まとめたいと思う。

(委員長) 例えば、大学運営に関しては多様性を求めていく、教育の充実などが考えられるか。個別の文言に対してではなく、6年間の方向性に関するものということだが、他大学の状況は確認しているか。

(事務局) 他大学の意見書は確認している。適当であると言いつつ、意見を付すところも少数あるが、適当であるという表現で終わっているところが多数。

(委員長) 意見書だから適当であるということを求められている訳でもない、適当であるかの判断が細かい部分は分からないという意見も分かる。意見書のスタイルについて、他の委員の皆さんはどうか。

(委員) 評価委員が言ったからこうしているというスタンスの表記が見えるところがあるが、そうではない。評価委員としての意見を述べているので、最終的には大学のトップと市で決めて目標や計画が作られるのが健全な姿である。これを踏まえると、方向性に関しては理解したということ意見を述べるのが適当であると感じた。同時に、これまでの気になっていたポイントに辻褄があうと思った。

(委員) 評価委員は基本的に同意できているということになると思う。文言一つひとつは我々が細々いうものではなく、大学と市で確認することだと思う。基本的には同意したということで我々は考えるべきだと思う。ただその中で、注釈としてコメントを書かせていただいたうえでの意見書というのが良いのではないか。

(委員) 評価結果に囚われてしまうのではなく、大学はある程度割り切ってもよいのではないか。大学として、人の評価を気にしないとする評価があってもよいのではないか。外部の人間であり、詳しくは分からない。目標に向かって大学が取り組む計画なので、意見書を出す必要はあると思っている。

(委員長) 法律上、認可にあたって意見が求められている以上、何も出さない訳にはいかない。私は概ね妥当という感じを受けている。今の議論を踏まえると、方向性的なもので、もっとこうしたほうが良いという点はいくつかあると思う。ある程度、委員が納得できるところをいくつか示すという意見書なのかと思う。

また、評価の目的は良い評価をもらうだけではなく、教育、研究、地域貢献などの大学のミッションを次につなげることが重要。評価自体が妥当でないという部分もあるので、評価の見直しも常に必要となってくる。PDC AのDの部分の大事。

評価に対する見方も考える必要がある。意見書は委員長と市でたたき台を作って委員に示すという方向で良いか。Aが少ないことを叩かれるのではなく、そこを見てどう良くしていくかの議論にしていきたい。評価委員会のミッションは、外から評価し、それを踏まえて前向きに捉えていただきたい。

(法人) 第2期中期計画策定にあたって、詳細に意見交換することができたので良い機会であった。大学側には説明責任がある。定量化した数値目標により、定型的に評価できるようにしたい。

(法人) 今回の意見を踏まえた修正点は、グローバル人材の育成、人件費抑制、情報の透明性、SPARC(文理融合)の4点で良いか。

(委員) 外部資金の使い方についても検討してほしい。

4 閉会